

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年1月23日（金）

2 確認箇所

- ・N o. 4 資材倉庫東側ポンプ点検ヤード（図1）
- ・5、6号敷地護岸ヤード（ALPS処理水希釈放出設備・放水立坑）（図1）

3 確認項目

- （1）ALPS処理水希釈放出設備定期点検の状況（海水ポンプ組立）
- （2）放水立坑（上流水槽）点検作業の状況

4 確認結果の概要

多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）は、海水でトリチウム濃度を1,500 Bq/L未満になるまで希釈した後、海洋に放出されている。希釈に用いる海水には貝類などの海生生物や土砂が含まれており、これらがALPS処理水希釈放出設備（以下「希釈放出設備」という。）のポンプや配管等の通水障害といったトラブルの要因となるため、定期点検が必要となる。

このため、東京電力では、第17回目（12月4日～12月22日）のALPS処理水放出と並行し、希釈放出設備の点検を実施している。

（1）ALPS処理水希釈放出設備定期点検の状況（海水ポンプ組立）

希釈放出設備のうち海水移送ポンプA系^{※1}の組立作業の状況について確認した。

- ・点検及び整備のために分解された海水移送ポンプA系の各部品は整理された状態で保管されていた。（写真1）
- ・当日は、海水移送ポンプA系の組立作業が行われており、3名が組立作業に従事し、1名は監視員として周囲の状況や安全等を確認していた。海水移送ポンプA系の部品の一部はクレーンで吊り上げられ、作業員の手によって、部品の拭き取り及び吸込ベル^{※2}と軸の接続等が行われていた。（写真2）
- ・作業エリアは単管パイプで区分けされており、みだりに作業エリアに立ち入ることができないよう措置が講じられていた。（写真3）

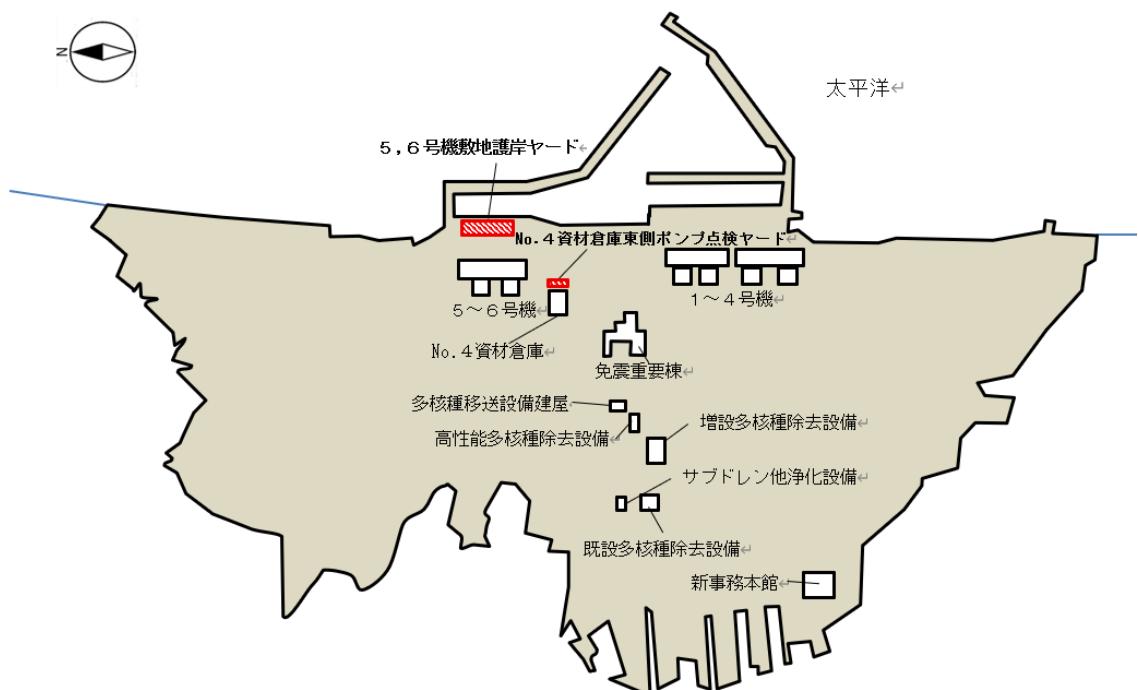
※1 第17回目のALPS処理水放出時には、海水移送ポンプB及びC系が用いられており、A系は停止中。

※2 ポンプの吸い込み口に設置するベル（鐘）形状の部材で、水が安定して流入するようにするためのもの。

(2) 放水立坑（上流水槽）点検作業の状況

希釈放出設備のうち放水立坑（上流水槽）の点検作業の状況について確認した。（前回確認日：令和7年1月29日）

- ・当日は、上流水槽底部において水抜き作業及び目視による壁面の調査（損傷及び海生生物付着の有無の確認等）が行われていた。（写真4）
- ・今後、上流水槽底部の補修作業として、防水塗装に膨れのあった部分が切除され、水抜き及び乾燥の後、モルタルの吹き付けによる補修が行われる。
- ・確認した範囲において、上流水槽の健全性に影響を与える損傷はなかった。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1①）海水移送ポンプA系の部品
(揚水管等)



（写真1②）海水移送ポンプA系の部品
(配管内の軸)



(写真2①)海水移送ポンプA系の組立作業の状況



(写真2②)海水移送ポンプA系の組立作業の状況



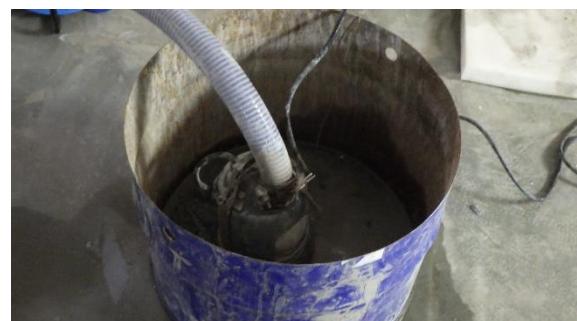
(写真2③)海水移送ポンプA系の組立作業の状況



(写真3)海水移送ポンプ組立作業エリア



(写真4①)放水立坑(上流水槽)の点検作業(壁面調査)の状況



(写真4②)水抜き作業の状況

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常値は確認されなかった。